

平成 28 年度  
学校関係者評価 報告書

平成 28 年 6 月  
学校法人 エイシンカレッジ  
日本ビジネス公務員専門学校

平成 28 年 6 月 21 日

## 平成 28 年度 学校関係者評価報告書

学校法人 エイシンカレッジ  
日本ビジネス公務員専門学校  
学校関係者評価委員会

学校法人 エイシンカレッジ 日本ビジネス公務員専門学校 学校関係者評価委員会は平成 27 年度自己点検・自己評価報告書の結果に基づいて学校関係者評価を実施しましたので以下のとおり報告致します。

### 1. 基本方針

本学における学校関係者評価は学校自己評価（項目別の自己評価表）を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

また、公表については「日本ビジネス公務員専門学校 学校評価実施規定」に則するものとする。

### 2. 出席者一覧表

名前	役職	所属（企業・団体名）
＜学校関係者評価委員＞		
田代 克郎	常務取締役	アートビジネスサプライ 株式会社
細貝 伸行	支店長	(株)エイエイピー 新潟支店
＜事務局＞		
森 久	学校長	日本ビジネス公務員専門学校
桜井 久史	教務部長	日本ビジネス公務員専門学校
安達 徳義	学科長（医療）	日本ビジネス公務員専門学校
岩根 英二	学科長（公務員）	日本ビジネス公務員専門学校
横山 孝	学科長（ビジネス）	日本ビジネス公務員専門学校
＜進行＞		
小林 幹直	事務局長	日本ビジネス公務員専門学校
＜記録＞		
山田 志保里	事務局	日本ビジネス公務員専門学校

### 3. 委員会次第（概要）

- ・開催日時 平成28年6月21日（火） 9:30 ～ 10:55
  - ・実施場所 日本ビジネス公務員専門学校 201 教室
  - （1） 学校長挨拶
  - （2） 委員紹介
  - （3） 学校関係者評価事業計画の説明
  - （4） 自己評価に関する改善討議
    - ①教育理念・目標    ②学校運営    ③教育活動    ④学修成果
    - ⑤学生支援    ⑥教育環境    ⑦学生の受入れ募集    ⑧財務
    - ⑨法令等の遵守    ⑩社会貢献・地域貢献
  - （5） 授業および施設視察
- （以上の評価項目に関するご意見・ご提言を頂いた）

### 4. 学校関係者評価委員による評価・指摘事項

#### ① 教育理念・目標

- ・理念に沿った教育活動ができており評価できる。
- ・資格取得、専門技術、人間性育成について各学科の特色に沿って実践できている現状が理解できた。今後も急速に変化する社会に対応できる人材を育成してほしい。
- ・地元産業に興味・関心を持たせるカリキュラム編成を検討したらどうか。

#### ② 学校運営

- ・コンプライアンス体制の整備を推進していくにあたり学校（主に担任）と在校生間のSNS利用は慎重に取り扱う必要がある。在校生との情報共有手段のルールや仕組みを学校全体で討議したらどうか。
- ・教員同士、教員と事務職員が密に連携し、在校生情報を共有していくように努めてほしい。
- ・些細な案件でもミーティングを習慣化する組織を推進していくことで「意思決定機能が不十分」の課題を改善できるのではないか。

#### ③ 教育活動

- ・在校生の挨拶が良くできている。授業や実習などを通し、継続的に指導していくとよい。
- ・企業では積極的で行動力ある人材を求める傾向がある。

一般民間企業への就職を目指す学生に対しては積極性や主体性を高める指導をより一層期待したい。

- ・職業実践性を含む多様な教育を実施するために関連業界の動向や意見を積極的に取り入れてほしい。
- ・公務員学科の教育内容に「地域貢献活動」「官公署へのインターンシップ」などを付加するとより実践的な発展につながるのではないかと。
- ・福祉業界の拡大（施設数）に伴い事務系スタッフの社会的ニーズが予測できる。医療事務学科、ビジネス学科においては今後も情勢に注視してほしい。
- ・医療事務業務では接客（患者対応）やコミュニケーション力といった一般ビジネススキルも重要である。現状、各科目でしっかりと指導できていると評価できるが更なる向上を期待したい。
- ・医療4分野（病院、歯科医院、調剤薬局、介護施設）の機関で活かせる学びは、学生にとって有益性が高いように思える。
- ・医療事務業務は人命にも関わる領域である。法改正やそれに伴う試験内容の改正把握などに努め、最新動向を教育に取り入れてほしい。
- ・授業や学生指導など日々多忙であると思うが研修やセミナー等へ積極的に参加し、質の高い教育を維持してほしい。

#### ④ 学修成果

- ・卒業生ケアの課題に関しては、学内でチームを立ち上げ計画的に取り組むべきである。
- ・こころにリスクを抱える在校生に対するケアは必要であるので大切にしてほしい。今後も多方面から支えられる体制の充実に期待したい。
- ・資格取得も重要だが人間力を高め評価していくことも重要である。

#### ⑤ 学生支援

- ・在校生に対する教育および学内生活における様々な支援体制を高く評価したい。
- ・在校生一人ひとりの個性を配慮した指導がなされている。頻繁に個別面談を実施し学生の現状把握に努めているので継続してほしい。
- ・学生相談に素早く対応できる体制が整備されているので早期に問題解決ができています。
- ・保護者会実施については学内で統一指針を定め、学科によるバラつきを調整してほしい。
- ・他の教育機関（小学校・中学校・高等学校など）に対し、専門的知識を体験できる機会をさらに増やすことで社会的に価値ある学校を目指してほしい。

## ⑥ 教育環境

- ・施設見学（点検）を実施したが、教育活動に必要な設備が完備されている。
- ・コンピュータはOS、ソフト両面で先進性が図られており適正な教育環境が整っている。ウィルス対策も評価できる。
- ・セクレタリー室は前近代的にうつる。実状に沿った設計を検討したらどうか。
- ・プロジェクターを活用した授業が多く見えた。板書する時間が省け、効率のよい授業が展開されている。
- ・各教室に避難経路図が掲示されており緊急体制が整備されている。一方で災害発生時の対応マニュアルの更新が遅れているとのことなので、早急に対応すべきである。
- ・校舎の経年化が進んでいるので安全・衛生の両面からコンディションを整えていくとよい。3階の病院受付実習室の雨漏りに関しては、早急に対応していく必要があるのではないか。

## ⑦ 学生の受入れ募集

- ・学生募集活動は適切におこなわれている。指摘事項なし
- ・Webサイトの仕様変更は、早い対応であり評価できるものである。

## ⑧ 財務

- ・公認会計士による会計監査がなされており運営の透明性が確保できている。
- ・社会では「業務監査」も重要視されている。会計以外の業務においても合理性・能率性、合法性を担保した運営を再度認識してほしい。
- ・学校運営の公開情報の一部として財務状況も開示することで健全性を確保してほしい。

## ⑨ 法令等の遵守

- ・SNSは在校生および教職員を巻き込んだ問題（事件）に発展する可能性が高まっている。現状を把握し、学校側で管理する部分を見極めて指導してほしい。
- ・コンプライアンス教育は領域に際限がないので計画・実行・評価、検討の枠組みを作りながら取り組むと効果的ではないだろうか。

## ⑩ 社会貢献・地域貢献

- ・在校生のボランティア活動の実情が把握できた。積極的に活動している学生が多く評価できる。
- ・若者の社会参加意識の低下について、対応した教育内容を計画し社会貢献を果たしてほしい。

- ・自校で育成した人材が地元産業で活躍することも大きな社会貢献である。職業教育の役割を全うしていくことを期待したい。

～学校関係者評価の総括～

平成 27 年度の自己評価として 10 項目の内容を検証したが、教育活動の在り方については、理念・目標に沿った実践がなされており自己評価結果が概ね適正であると評価できる。今後は実務的な教育と合わせて社会性向上につながる教育を一層充実できるよう力を入れて取り組んで頂きたい。

最後に、18 歳人口が減少し、成長のない教育機関は淘汰されていく時代である。高校生に支持される学校として存続していくために、地域社会や産業と結びついた教育が提供できるように委員会も引き続き協力していきたい。